日本列島情報ネット 関西版

豊和スチール

拡販・施工体制強化の取り組み

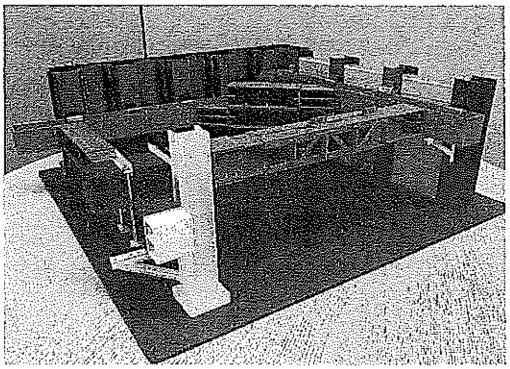
独自商品を軸に事業拡大

裏込めブロック、パラミックスで施工力強化

人材増員・本社事務所拡張・賃上げで定着促進

宮ノ腰社長

重仮設資材の販売、リース、工事を手掛ける豊和スチール（本社・大阪市西区、社長・宮ノ腰孝雄氏）は、独自商品の拡販と施工体制の強化を進めている。足元ではHS型裏込めブロック（Ⅲ型）やパラミックス工法など、現場の省力化や安全性向上に寄与する商品・工法の採用拡大を図る。さらに、若手人材の採用・育成にも力を入れ、次の成長に向けた基盤づくりを進めている。


3D模型を利用して取引先へ分かりやすく説明

成長の柱の一つが独自商品のHS型裏込めブロックだ。2020年にⅢ型を開発し、25年以降は稼働数がさらに増加。今年は裏込めブロック全体の稼働数が過去最高水準となっている。全国の拠点で拡販する中、東京では大型再開発案件の「Torch Tower（トーチタワー）」（東京都千代田区、地上62階、高さ385㍍）の関連現場などで採用が進み、重仮設大手からの受注も増えている。

同製品は山留めの腹起しと土留め壁の隙間を埋める裏込め材。コンクリートの打設や養生を必要とせず、廃材の発生を抑えられるほか、作業負担の軽減や施工の迅速化につながる。不燃塗料の使用で安全性にも配慮。現場条件に応じた複数タイプを展開し、NETIS登録製品となっており、採用実績も積み重ねている。都市再開発向けには大規模な新規出荷を予定しており、関西でも豊富な在庫と供給力を生かして大型案件への対応を進める。

仮設桟橋向けのパラミックス工法も採用が拡大している。支持杭を地表付近で打ち止め、上部杭や桁材などを地上でパネル化して取り付けることで、高所作業や溶接作業を削減。山間部など施工条件の厳しい現場でも安全性を高め、工期短縮につなげられる。松山自動車道、東海北陸自動車道などで採用されており、大手リース業者との連携による仮設橋梁や支保工足場への展開も進める。今後も全国で施工実績を積み重ね、工事部門の収益力向上を目指す。

豊和スチール株式会社
拡張した本社事務所

仮設ガードレール「HS-GUARD」をはじめ、スチフナージャッキ、軽量鋼矢板、覆工板、鋼製山留め材なども扱う。切断、穴開け、溶接、修理などの加工にも対応し、資材の販売・リースだけでなく、工事に関わる設計から加工、施工まで一貫して対応できる点を強みにする。

成長を支える人材面では、昨年から今年にかけて各拠点で中途採用を進め、今期も本社で若手2人の増員を予定する。工場や工事現場に加え、鋼材倉庫や加工場を訪問する研修も実施し、大阪、東京、中国、四国など拠点をまたいだ交流を促進。現場への理解を深め、拠点間の関係づくりにもつなげている。

26年6月期は売上高、経常利益とも期初目標を達成したものの、前期に比べるとやや落ち込んだ。中東情勢の影響で裏込めブロックの材料価格が10%以上上昇したことや、外注費の増加が響いた。一方、若手採用や施工管理部門の強化、工場での世代交代を進めるとともに、事務所の拡張など職場環境の改善にも取り組む。

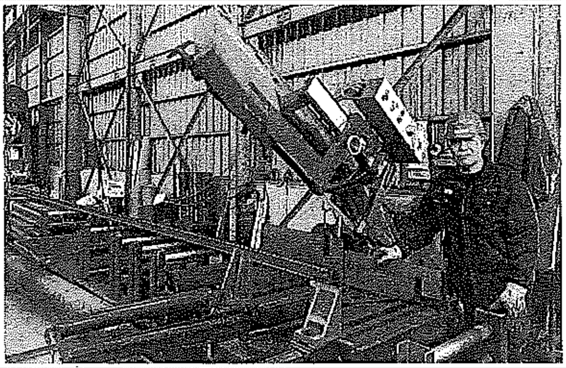
年間休日は125日以上とし、10年以上にわたり賃上げを継続。4年連続で大幅なベースアップを実施するなど、社員への還元を積極的に進め、人材の定着を図っている。こうした取り組みを通じ、需要を取り込むための組織基盤を着実に整えている。

今後は独自商品の販売拡大に加え、商品を起点に施工まで受注することで、販売、リース、工事の相乗効果を高め、収益力の向上につなげる。

宮ノ腰社長は「商品を広げるには、扱う人材と施工する人材の双方が必要。若手に現場や工場を知ってもらい、拠点を越えて連携できる組織をつくりたい。3Dプリンタで商品模型を作成し、営業と施工管理が客先に同行して分かりやすく説明する取り組みも進めている。大手リース業者とも連携し、施工班の拡充を進めながら、健康と安全を第一に実績を積み重ね、全国での採用拡大につなげたい」と話す。

イボキンが決算説明会

阪神地区に新工場、27年度中稼働目指す


増設したバンドソー。既存需要の掘り下げや新規需要の獲得を目指す

総合リサイクル業のイボキン（本社・兵庫県たつの市、社長・高橋克実氏）はこのほど、2026年12月期中間期の決算説明会を開催し、今後の事業展開について説明した。高橋社長は解体事業について「市場は拡大傾向にある。大型案件への対応能力を増強し、さらなる信頼性の獲得を目指す」と述べた。

成長エンジンと位置付ける解体事業では、大型案件への対応能力を増強する。大型解体案件に関する技術の開発・蓄積を進めるほか、風力発電設備の解体にも注力する方針。また、受注拡大に向け、組織改編を実施し、営業と施工の専門化・分業化を図った。

子会社のミツエとの連携について、高橋社長は「兵庫県内の施工体制強化や大型重機の機動的な活用、アスベスト除去工事の内製化など、子会社化の効果が表れている」と話した。

環境・金属事業では、阪神地区に新工場を開設する。25年12月に大阪市住之江区で約900坪の工場用地を取得しており、27年度中の開業を目指す。阪神事業所（兵庫県尼崎市）と同様の機能を持たせ、大阪南部をカバーするほか、たつの市の工場と連携する際の前処理工程を担う。

技術開発では、従来工法で撤去が困難な杭に対し、超大型重機を使用した杭抜き工法を開発。安全性や作業効率を高め、特許も出願しており、引き合いが増加していると説明した。

4月に戦略的業務提携（MOU）を締結した三井物産とは、同社グループやその顧客の解体案件への参画を始めたほか、解体で発生する金属スクラップを大手鉄鋼メーカーへ安定的・効率的に供給するための共同研究を開始したと説明。このほか、インドネシア人材を26年度中に14人追加採用し、解体工事や運輸従事者の不足解消につなげるとした。

%減となった。

品種別に見ると、へ

ビーが6・7%増、新断が1・1%減、ダラ

【期末在庫】▽99
69（6412）

乾杯の挨拶をする前理事長の岡本相談役㊤、大阪締めを執り行った

西部鋼管製造協組

7月生産は前月比3%減

溶接管、継目無管とも減少

愛知県以西の冷間引抜鋼管メーカー9社で構成する西部鋼管製造協同組合は、7月の生産実績をまとめた。

全体では1万1805㌧で、前月比2・8%減少した。今年4月に会員企業同士の統合や正会員からの退会があったため前年同月との比較はなし。素管別の内訳は、溶接管が8684㌧で前月比3・5%減、継目無管が3121㌧で同0・7%減。詳細は次の通り。

（単位・トン）

【普通鋼・構造用】▽溶接管＝8560▽継目無管＝1905▽小計＝1万465

【同・配管用】▽溶接管＝1▽継目無管＝56▽小計＝57

【同・特殊配管用】▽溶接管＝24▽継目無管＝608▽小計＝632

【同・缶用】▽継目無管＝158

【同・その他】▽溶接管＝99▽継目無管＝34▽小計＝133

【同・小計】▽溶接管＝8684▽継目無管＝2761▽小計＝1万1445

【特殊鋼・構造用合金鋼】▽継目無管＝32

【同・機械構造用炭素鋼】▽継目無

【同・ステンレ

▽継目無管＝93

【同・小計】

無管＝360

ビジネスマナー・コミュニケーション研修会

大阪ステンレス流通協が開催

大阪ステンレス流通協会は、7日にビジネスマナー・コミュニケーション研修会を大阪市中央区の鉄鋼会館で開催した。25日にも同様の研修会が開催され両日合わせて32人が受講した。7日の研修会の冒頭、調査研究委員会副委員長の吉澤宏之朝日ステンレス社長は「きょうはマナ

だしなみ、コミ

ーションなど社

しての基本を学

ただく。長時間

貴重な体験なの

全特協の西日本3支部

10月に特殊鋼技士入門編講

全日本特殊鋼

会（全特協）の

中国、九州の西

支部は、特殊鋼

士入門編講座を

開講する。

同講座は、営

限らず新入社員

技研製作所

インドに駐在事務所を開

現地企業と

建設機械メー

技研製作所（本

知市、社長・大

はこのほど、イ

グジャラート州

ダバードに駐在

所を開設し、7

業務を開始した

した。

現地パートナ

のプレキャスト

リート製造大手

ilvertech Conc

ivate Limited